令和８年度　北海道大学大学院経済学院
会計情報専攻（会計専門職大学院）入学試験

専門科目（共通科目）会計学　試験問題

試験期日：令和７年８月２６日
試験時間：９時００分～１０時３０分

解答上の注意

１．試験開始の合図があるまで，この問題冊子を開いてはならない．

２．受験番号は，監督員の指示にしたがって解答用紙の指定された箇所に記入しなさい．

３．解答は，解答用紙の指定された箇所に記入しなさい．

４．文字は楷書体（ブロック体）で，濃くはっきりと記入しなさい．

５．試験途中での試験場退出は，体調不良等を除き認めない．

会計学

問題Ⅰ～Ⅲのすべてに解答しなさい.

問題Ⅰ. 以下の1から4に解答しなさい.

1. 次の（1）から（4）の取引について仕訳を起こしなさい.

（1） 売買目的で当期に 3 回にわたり購入した弘前商会株式会社の株式 6,000 株のうち 4,000 株を@￥1,100 で売却し, 代金は小切手で受け取った. なお, 同社の株式は第 1 回目に 1,000 株を@￥1,250, 第 2 回目に 2,000 株を@￥1,100, 第 3 回目に 3,000 株を@￥900 で購入し, 平均原価法によって記帳を行っている.

（2） 令和 7 年 12 月 14 日に売買目的で保有している仙台商会株式会社の社債(額面総額￥5,000,000, 額面￥100 につき￥96.5 で購入し, 年率 7.3%, 利払日 9 月 30 日と 3 月 31 日の年 2 回) を額面￥100 につき￥98 で売却し, 代金は端数利息と共に月末に受け取ることにした.

（3） 新工場建設予定地 350 ㎡を 1 ㎡あたり￥15,000 で購入し, 代金は小切手を振り出して支払った. なお, 不動産会社への仲介手数料￥200,000, 登記料￥60,000 および整地費用￥150,000 は現金で支払った.

（4） 決算日において取得原価￥2,000,000, 減価償却累計額￥1,440,000 の営業用車両を￥100,000 で売却し, 代金は現金で受け取った. なお, 当期分の減価償却費￥360,000 の計上についてもあわせて行った.

2. 決算に際し，本店の支店勘定残高は，¥30,000（借方），支店の本店勘定残高は¥26,000（貸方）であった．以下の（1）並びに（2）に答えなさい．

(1) 次の①～③の未達事項を整理し，仕訳を起こしなさい．

① 本店は支店に原価¥5,000 の商品を発送したが，支店に未達である．

② 本店は支店の売掛金¥3,000 を小切手で受け取ったが，支店に未達である．

③ 支店は本店に現金¥2,000 を送金したが，本店に未達である．

(2) 本店勘定と支店勘定を一致させると残高はいくらになるか答えなさい．

3. 以下に示す受取手形記入帳並びに支払手形記入帳を踏まえ，（1）4月 10 日並びに（2）7月 15 日の仕訳をそれぞれ起こしなさい．

受取手形記入帳

○年		摘要	金額	手形種類	手形番号	支払人	振出人または裏書人	振出日		満期日		支払場所	てん末		
													月	日	摘要
4	1	売上	100,000	約手	15	米子商店	米子商店	4	1	7	1	××銀行本店	7	1	入金
	10	売掛金	200,000	為手	38	浜田商店	境港商店	4	10	8	10	××銀行××支店	4	15	要書裏派
	20	売掛金	150,000	約手	26	安木商店	倉吉商店	4	20	8	20	××銀行××支店			
	25	売上	300,000	約手	32	津和野商店	津和野商店	4	25	6	25	××銀行本店	4	26	割引

支払手形記入帳

○年		摘要	金額	手形種類	手形番号	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	てん末		
													月	日	摘要
4	5	仕入	400,000	約手	18	日ノ丸商店	当店	4	5	7	5	××銀行××支店	7	5	支払
	15	仕入	550,000	為手	20	カスミ商店	当店	4	15	7	15	××銀行本店	7	15	支払
	30	買掛金	200,000	為手	46	八幡商店	東栄商店	4	30	8	30	××銀行××支店			

4. 以下に示す棚卸表から決算を行う上で（1）から（3）に答えなさい.

棚　卸　表

福岡商店　　令和7年12月31日

勘定科目	摘　　要	金　　額
建　　物	木造３階建店舗　１棟	
	令和5年1月1日取得	
	取得原価	10,000,000
	帳簿価額	8,200,000
	残存価額　取得原価の1/10	
	耐用年数　10年	
	償却方法　定額法	
前払保険料	火災保険料　令和8年1～3月分（3ヶ月）	30,000
前受家賃	賃貸アパート1月分（１ヶ月）	40,000
未収地代	貸し土地　12月分（1ヶ月）	100,000
未払利息	借入金に対する12月分（1ヶ月）	15,000

（1）精算表内の（　A　）～（　F　）に適切な文字又は数字を解答しなさい.

精　算　表

福岡商店　　令和7年12月31日

勘定科目	残高試算表欄		整理記入欄		損益計算書欄		貸借対照表欄	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	530,000							
売掛金	260,000							
商品	230,000							
建物	8,200,000						（　F　）	
買掛金		220,000						
借入金		4,000,000						
資本金		5,000,000						
商品売買益		40,000						
受取家賃		80,000				（　D　）		
受取地代		100,000				（　E　）		
保険料	100,000				（　B　）			
支払利息	120,000				（　C　）			
減価償却費								
前払保険料								
前受家賃								
未収地代								
未払利息								
当期（　A　）								
	9,440,000	9,440,000						

（2）決算振替仕訳を解答しなさい.

（3）令和７年 12 月 31 日作成時点の繰越試算表における資本金の金額を答えなさい.

問題Ⅱ．以下の１から４に解答しなさい．

1．当工場は，等級別総合原価計算（等価係数を利用して完成品総合原価を各等級品へ按分する方法）を採用している．以下の【資料】にもとづいて，X 製品の完成品総合原価（A），X 製品の完成品単位原価（B），Y 製品の完成品単位原価（C），Z 製品の完成品単位原価（D）を計算しなさい．なお，完成品単位原価の計算過程で端数が生じた場合は，小数点以下第 1 位を四捨五入すること．

【資料】

生産データ（単位：個）

月初仕掛品	500	(70%)
当月投入	2,900	
合　計	3,400	
月末仕掛品	400	(60%)
完成品	3,000	

原価データ（単位：円）

	直接材料費	加工費
月初仕掛品	150,800	68,780
当月製造費用	835,200	514,420

＊ 材料は，工程の始点ですべて投入している．（　）内の数値は，加工進捗度である．

＊ 完成品 3,000 個の内訳は，X 製品 1,300 個，Y 製品 900 個，Z 製品 800 個である．

＊ 等価係数は，X 製品，Y 製品，Z 製品＝1：0.8：0.6 とする．

＊ 完成品と月末仕掛品への原価配分は，平均法を用いている．

2. 当工場では，実際個別原価計算を実施している．以下の【資料】にもとづいて，仕掛品勘定と製品勘定に示された（E），（F），（G），（H）の金額を計算しなさい．なお仕訳と勘定記入は，月末にまとめて行っているものとする．

【資料】原価計算票の要約

製造指図書番号	直接材料費	直接労務費	製造間接費	備　考
No. 101	600,000 円	375,000 円	585,000 円	6/1 製造着手，6/25 完成，7/2 引渡し
No. 102				
6 月	720,000 円	180,000 円	375,000 円	6/20 製造着手，7/12 完成
7 月	—	202,500 円	273,000 円	7/28 引渡し
No.103	637,000 円	442,500 円	630,000 円	7/3 製造着手，7/30 完成，7 月末現在未引渡
No.104	795,000 円	216,000 円	305,000 円	7/20 製造着手，7 月末現在未完成

仕掛品　（単位：円）

7/1	前月繰越		7/31	製　品	
7/31	直接材料費	(E)	〃	次月繰越	
〃	直接労務費				
〃	製造間接費	(F)			

製　品　（単位：円）

7/1	前月繰越		7/31	売上原価	(H)
7/31	仕掛品	(G)	〃	次月繰越	

3．当工場は，継続記録法により材料元帳を作成している．以下の【資料】にもとづいて，元帳内の（I），（J），（K）に記入される数量・単価・金額を答えなさい（（K）は数量と金額のみ）．なお，材料の実際消費単価の決定は，先入先出法によっている．

【資料】

8/1　前月繰越　数量 600kg　単価 400 円

8/7　入　　庫　数量 1,000kg　単価 480 円

8/11　出　　庫　数量 800kg

8/18　入　　庫　数量 800kg　単価 540 円

8/27　出　　庫　数量 1,200kg

材　料　元　帳

日時		摘要	受入			払出			残高		
月	日		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
8	1	前月繰越	600	400	240,000				600	400	240,000
	7	入　　庫									
	11	出　　庫				(I)	(I)	(I)			
						(I)	(I)	(I)			
	18	入　　庫									
	27	出　　庫				(J)	(J)	(J)			
						(J)	(J)	(J)			
	31	次月繰越									
			(K)		(K)						
9	1	前月繰越									

4. 以下の文章は，原価計算基準から一部を抜粋したものである．空欄（L）から（O）に入る用語を解答しなさい．ただし，同じ記号には同じ用語が入る．

【文章 1】

原価要素は，これを原価部門に分類集計するに当たり，当該部門において発生したことが直接的に認識されるかどうかによって，（L）と（M）とに分類する．

（L）は，原価部門における発生額を直接に当該部門に賦課し，（M）は，原価要素別に又はその性質に基づいて分類された原価要素群別にもしくは一括して，適当な配賦基準によって関係各部門に配賦する．（M）であって工場全般に関して発生し，適当な配賦基準の得がたいものは，これを一般費とし，補助部門費として処理することができる．

【文章 2】

（N）とは，同一工程において同一原料から生産される異種の製品であって，相互に主副を明確に区別できないものをいう．（N）の価額は，（N）の（O）等を基準として定めた等価係数に基づき，一期間の総合原価を（N）にあん分して計算する．

問題Ⅲ．以下の１～２のすべてに解答しなさい．

１．以下の（１）から（４）は，『監査基準』の規定である．記号（A）～（I）に入る適当な用語を解答欄に記入しなさい．なお，同じ記号には同じ用語が入る．

（１）監査人は，(A) を正当な理由なく他に漏らし，又は窃用してはならない．

（２）監査人は，監査の実施において，（B）を含む，企業及び企業環境を理解し，これらに内在する（C）等が財務諸表に重要な虚偽の表示をもたらす可能性を考慮しなければならない．

（３）監査人は，虚偽の表示が生じる可能性と当該虚偽の表示が生じた場合の（D）的及び（E）的影響の双方を考慮して，(F) リスクが最も高い領域に存在すると評価した場合には，そのリスクを（G）リスクとして取り扱わなければならない．特に，監査人は，(H) や収益認識等の判断に関して財務諸表に重要な虚偽の表示をもたらす可能性のある事項，不正の疑いのある取引，特異な取引等，(G) リスクがあると判断した場合には，そのリスクに対応する監査手続に係る監査計画を策定しなければならない．

（４）監査人は，重要な監査手続を実施できなかったことにより，(I) を得られないときは，意見を表明してはならない．

２．以下の（１）から（４）は，『監査に関する品質管理基準』の規定である．記号（J）～（O）に入る適当な用語を解答欄に記入しなさい．なお，同じ記号には同じ用語が入る．

（１）監査事務所は，品質管理システムの整備及び運用の状況を適切に記録し，保存するための（J）又は（K）を定め，それらが遵守されていることを確かめなければならない．

（2）監査事務所は，品質目標の設定，品質リスクの識別及び評価，品質リスクへの対処からなる（L）プロセスを整備し，運用しなければならない．

（3）監査実施の責任者は，（M）を保持するとともに，補助者が（M）を保持していることを確かめなければならない．

（4）監査実施の責任者は，監査意見の表明に先立ち，（N）の査閲等を通して，（O）が入手されていることを確かめなければならない．